



カケハシ・プロジェクト（招へいプログラム） （アメリカ、若手研究者第2陣）の記録

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」として、米国より大学院の若手研究者 32 名が、2017 年 1 月 23 日～29 日の 6 泊 7 日の日程で来日し、日本の政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策等などの対日理解促進を目的としたプログラムに参加しました。省庁講義、歴史的建造物視察、学校交流、ホームステイ等を通じて幅広く日本を理解する機会を持ち、各々の関心事項や体験について SNS を通じて対外発信を行いました。また、報告会では訪日経験を生かした、帰国後のアクションプラン（活動計画）について発表しました。

【参加国・人数】

アメリカ 32 名（グループ A：ジョージ・ワシントン大学、グループ B：ジョンズ・ホプキンス大学、グループ C：ジョージタウン大学）

【訪問地】

東京都、長崎県

2. 日程

- 1 月 23 日（月） 成田国際空港より入国
- 1 月 24 日（火） 【オリエンテーション】
【講義】 外務省北米局「日本の外交政策」
【最先端技術】 電源開発株式会社 磯子火力発電所
- 1 月 25 日（水）
 - グループ A：【学校交流】 上智大学
【学校交流】 神奈川総合高等学校
 - グループ B：【学校交流】 東京大学、早稲田大学
【省庁訪問】 防衛省
 - グループ C：【学校交流】 慶應義塾大学
【表敬訪問】 米国大使館
【表敬訪問】 松川るい参議院議員
- 1 月 26 日（木） 長崎へ移動
【文化体験・交流】 松浦市：いももち作り体験
【ホームステイ】
- 1 月 27 日（金） 【ホームステイ】 歓送会
【歴史的建造物】 旧楠本正隆邸、大村公園
【歴史的建造物】 長崎原爆資料館、平和公園
【歴史】 被爆体験講話
【ワークショップ】
- 1 月 28 日（土） 東京へ移動
【昼食交流会】 政策研究大学院大学
【報告会】
【歴史的建造物】 浅草寺
- 1 月 29 日（日） 成田空港より出国

3. プログラム記録写真

東京都



1/24【最先端技術】電源開発株式会社磯子火力発電所（横浜市）（全グループ）



1/25【学校交流】(A)上智大学（東京都）



1/25【学校交流】(B)東京大学（東京都）



1/25【表敬】(C)松川るい議員（東京都）

地方プログラム（長崎県）



1/26【文化体験】いももち作り体験（松浦市）



1/27【ホームステイ】歓送会（松浦市）



1/27【歴史的建造物】平和公園（長崎市）



1/27【歴史的建造物】長崎原爆資料館（長崎市）

	
1/27【歴史】被爆体験講和（長崎市）	1/27【ワークショップ】（長崎市）

4. 参加者の感想

◆ アメリカ 大学生

松浦市のホストファミリーは私たちを大歓迎してくれました。このような素晴らしいホストファミリーに出会えたことを幸運に思います。美味しい夕食と朝食、ホストファミリーのおばあちゃんが着物を着せてくれたことなどは、忘れることができない思い出となりました。地元に住む人々との交流が、その土地の文化と歴史に触れ、深く知るのに最も楽しく、分かりやすい方法だと思います。

長崎の原爆関連の歴史施設の視察では、心を動かされました。軍縮を推進するため、米国の政治家と話す機会を得られるよう自分ができる限りの活動を行いたいと思います。

◆ アメリカ 大学生

長崎で被爆された方の講話は、信じ難いほどの衝撃でした。自分たちが座っている場所からわずか数百メートルの場所で、現実にもその様なことが起こったということは、信じ難いことでした。伺ったお話しはとても痛ましいものでしたが、それでも、築きあげてこられた人生を垣間見ることができ、希望を感じました。

◆ アメリカ 学生

基調講義では、日本の複雑な対外政策が明確にわかりやすく説明され、多くを学ぶことができました。

慶応大学の学生が米国の政策について多くの知識があったことに驚きました。何人かの生徒と連絡先を交換したので、彼らが3月にワシントンDCを訪れる際には、我々が彼らを歓迎したいと思います。

米国大使館訪問は有意義でした。質疑応答では日本が置かれている現状に対して、外交官の見解を知ることができ、良かったです。同様に、松川るい参議院議員訪問は特別な経験で、現行の各種課題に関する日本の立ち位置など、ざっくばらんに話をしてくださいました。

発電所の視察は興味深くはありましたが、自分の研究とは関係性が薄かったです。

日本の農村部の訪問とホームステイ体験は、プログラム全体の中でも、素晴らしいものでした。日本語が話せないため、お互いを常に理解できたわけではありませんが、日本の農村で地元の人々と暮らす生活がどのようなものかを知ることができ、特別な体験となりました。ホームステイは15時間しかなかったのもう少し長くホストファミリーとの時間があれば良かったと思います。ホストファミリーとの餅づくりは、このプログラムで最も楽しい部分でした。

5. 受入れ側の感想

◆ 受け入れ協力学校担当者

今年で3年目の受け入れとなり、生徒・学校全体に良い影響を与えたと感じております。このような素晴らしい機会を与えて頂きありがとうございました。

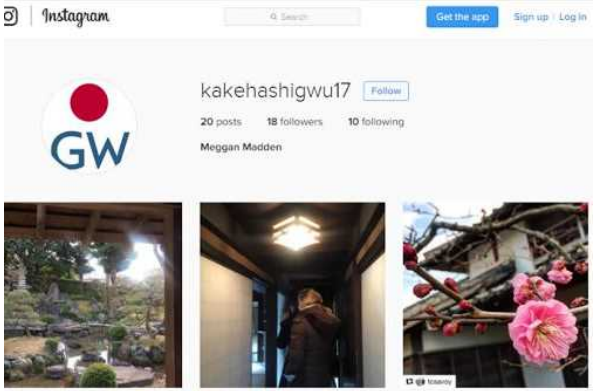
◆ 学校交流参加学生

今回は貴重な機会をありがとうございました。ディスカッション内容については、中には難しいものもありましたが、テーマが教育を中心としていたこともあり、自分たちの体験を交えながら話すことができました。個人的なエピソードを共有することでより深い話し合いになったと思います。全体的にとっても前向きで、為になる時間を過ごすことができました。英語が聞き取れなかったり、単語の意味が分からなかった時に、アメリカ人の学生がゆっくり話してくれたり、簡単な単語に言い換えてくれたのは助かりました。また同じような機会があると嬉しく思います。

◆ ホストファミリー

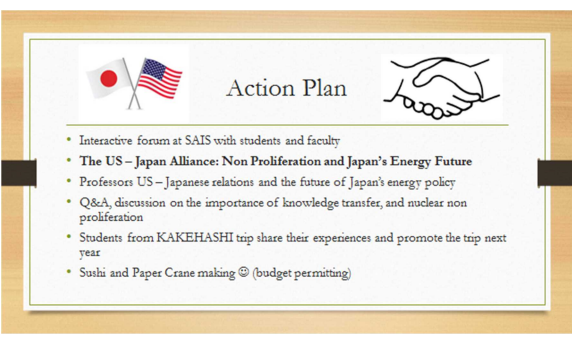
受け入れ当日まで、言葉が通じるのかどうか心配でたまりませんでした。何とか心は通じるものですね。受け入れをした2名とも心の広い人格者だと思いました。素晴らしい一晩を体験させて頂きました。

6. 参加者の対外発信

	
A グループの発信 (Facebook) KAKEHASHI プログラム初めの数日間の写真	A グループの発信 (Instagram) 長崎県大村市での伝統的な日本の風景
	

B グループの防衛相訪問についての発信 日本への研修旅行の一環として、防衛省を訪問。同窓の林太郎氏から防衛政策を拝聴した。	B グループの磯子火力発電所についての発信 日本で2番目に大きい都市（横浜）にある石炭火力発電所を見学
	
C グループの基調講義についての発信 オリエンテーションと基調講義	C グループの発信（Twitter） 慶應義塾大学、米国大使館、参議院会館訪問

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

Action Plan – What is Our Action Plan? <table border="1"> <tr> <td>Findings and impressions driving our plan?</td><td>When nurtured and encouraged, students are willing and capable of expressing creative opinions, personal feelings and ideas, which leads to innovation, increasing opportunities while balancing tradition and progress</td></tr> <tr> <td>What to do?</td><td>Through partnership with Sophia University, there will be increased innovation in curriculum and the opportunity for intercultural exchange in March. During this time, we will offer roundtable discussions that focus on internationalization, global competency, and provide them a platform for expressing their thoughts and opinions freely and openly in an exercise of critical dialogue.</td></tr> <tr> <td>How?</td><td>By building upon connections we make with the Sophia University Kakehashi group by Facebook/emailing and planning for their March trip to DC. Also, we will continue our exchange by further discussing ideas and taking them out to experience traditional American local activities/cuisine</td></tr> <tr> <td>When?</td><td>March 3 (leading up to); 2 months upon reentry</td></tr> <tr> <td>Who will do it?</td><td>Participants within the Kakehashi Project</td></tr> <tr> <td>Audience?</td><td>Sophia University students</td></tr> </table>	Findings and impressions driving our plan?	When nurtured and encouraged, students are willing and capable of expressing creative opinions, personal feelings and ideas, which leads to innovation, increasing opportunities while balancing tradition and progress	What to do?	Through partnership with Sophia University, there will be increased innovation in curriculum and the opportunity for intercultural exchange in March. During this time, we will offer roundtable discussions that focus on internationalization, global competency, and provide them a platform for expressing their thoughts and opinions freely and openly in an exercise of critical dialogue.	How?	By building upon connections we make with the Sophia University Kakehashi group by Facebook/emailing and planning for their March trip to DC. Also, we will continue our exchange by further discussing ideas and taking them out to experience traditional American local activities/cuisine	When?	March 3 (leading up to); 2 months upon reentry	Who will do it?	Participants within the Kakehashi Project	Audience?	Sophia University students	
Findings and impressions driving our plan?	When nurtured and encouraged, students are willing and capable of expressing creative opinions, personal feelings and ideas, which leads to innovation, increasing opportunities while balancing tradition and progress												
What to do?	Through partnership with Sophia University, there will be increased innovation in curriculum and the opportunity for intercultural exchange in March. During this time, we will offer roundtable discussions that focus on internationalization, global competency, and provide them a platform for expressing their thoughts and opinions freely and openly in an exercise of critical dialogue.												
How?	By building upon connections we make with the Sophia University Kakehashi group by Facebook/emailing and planning for their March trip to DC. Also, we will continue our exchange by further discussing ideas and taking them out to experience traditional American local activities/cuisine												
When?	March 3 (leading up to); 2 months upon reentry												
Who will do it?	Participants within the Kakehashi Project												
Audience?	Sophia University students												
A グループのアクション・プラン ・引き続き日本に関する SNS へ投稿を行う ・上智大学とは相互のプログラムのため、アメリカで迎えた時に自由にディスカッションする場を提供できるようにする。	B グループのアクション・プラン ・SAIS で、学生・教授陣との双方向的なフォーラムを行う ・技術知識の移転の重要性および核不拡散について Q&A とディスカッションを行う。 ・KAKEHASHI 参加者は経験を発信し、次年度へとつなげる。 ・予算が許せば、寿司を出したり、折り紙づくりをあわせて行う。												
Action Plan RESILIENCE RESPECT REASSURANCE CONNECT COMPILE COMPOSE													

- ・ 構成 : Washington Post や The Diplomat に記事を掲載
- ・ 繋がり : 慶応大学、上智大学の KAKEHASHI プログラム参加者を迎え入れ、交流を続ける
- ・ まとめる : ブログを作成、自分たちのネットワークを通し写真などを共有